

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02384

研究課題名（和文）学生の食生活改善を促す新規支援的環境要因の解明 シミュレーション解析を用いた検証

研究課題名（英文）Elucidation of new supportive environmental factors to improve eating habits among students: Verification based on simulation analysis

研究代表者

笠巻 純一（Kasamaki, Jun-ichi）

新潟大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：00456344

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は大学生等を対象とした縦断的調査等の結果に基づき、食行動や食品群別摂取状況、飲酒・喫煙行動に影響を与える要因を明らかにして、生活習慣病の一次予防を図るための支援的環境の構築に生かすことを目的とした。解析結果から、主に「女子大学生の間食行動と心理的ストレスとの関連」「女子学生の食の嗜好性と食行動・食品群別摂取状況との関連」「調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響」「女子大学生の飲酒行動の変化と関連要因」「男子学生の喫煙行動と喫煙に対する恩恵・負担の認識との関連」等を明らかにした。今後、これらの知見を、若年層を対象とした新しい健康支援策に活用することが期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

生活習慣病は健康増進や健康寿命延伸の阻害要因であり、その一次予防は、日本の健康政策の重点課題でもある。生活習慣病は青少年期からの食生活等の生活行動が影響することから、若い世代を対象に、疾病を未然に防ぐための新たな予防策を推進する必要がある。本研究の意義は、日本国内の大学生等を対象とした縦断的調査等の結果に基づき、食行動や食品群別摂取状況、飲酒・喫煙行動に関連・影響する要因を明らかにして、生活習慣病の一次予防を図るための支援的環境の構築に活用し得るエビデンスを提示したことにある。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to identify the factors that influence eating behavior, intake of six food groups, and drinking and smoking behavior among university students and other subjects.

The results of the statistical analysis revealed mainly “Correlation between snacking behavior and interpersonal stress in female university students”, “Relationships between food preferences, eating pattern, and nutrient intake in female university students”, “Effects of self-evaluation of cooking skills on nutrient and other dietary substance intake among female college students”, “How the perception of pros and cons of smoking correlates to male college students’ smoking behavior”, and “Correlation between changes in drinking behavior of female university students and pros/cons of alcohol intake”.

These findings could help create a new health support system for the primary prevention of non-communicable diseases, particularly for youth.

研究分野：衛生学・公衆衛生学

キーワード：生活習慣病 健康行動 学生 食行動・栄養 飲酒 喫煙 縦断研究 NCDs

## 1. 研究開始当初の背景

生活習慣病は健康増進や健康寿命延伸の阻害要因である。生活習慣病の一次予防は、QOL (Quality Of Life: 生活の質) の低下防止に必要不可欠であり、日本の健康政策「健康日本 21 (第二次)」(厚生労働省, 2012) の重点課題でもある。さらに、生活習慣病は青少年期からの食生活等の生活行動が影響することから、若い世代を対象に、疾病を未然に防ぐための新たな予防策を推進する必要がある。近年、日本では、青少年層の野菜類摂取不足や朝食欠食、特定食品への過度な依存等が問題視されている。生活習慣病の一次予防を推進するためには、食行動の早期改善が重要といえる。若い世代の喫煙に伴う健康影響も憂慮される。若年者の冠動脈疾患と喫煙との関連や未成年期からの喫煙と成人期における喫煙継続のリスクが指摘されている。「未成年者の喫煙をなくす」ことは、健康日本 21 (第二次) の目標でもあり、たばこ抑制策の充実が必要である。また、未成年大学生等の飲酒とその後の健康影響を憂慮する報告も散見される。継続的な飲酒による悪性新生物などの生活習慣病のリスク低減のみならず、学生のアルコール摂取に伴う事故等を未然に防ぐための支援策が求められる。

## 2. 研究の目的

大学生等を対象とした縦断的調査等の結果に基づき、食行動や食品群別摂取状況、飲酒・喫煙行動に影響を与える諸要因を明らかにする。また、健康行動の改善に有用な介入方法を検討するための基礎研究として、日本人向け包括的ヘルスリテラシー尺度について検討する。これらの研究を通して、生活習慣病の一次予防を図るための支援的環境の構築に活用し得る健康情報を提示する。主に以下の3つの研究を進める。

- 1) 食行動及び食品群別摂取状況に関連・影響する諸要因(食の嗜好性、心理的ストレス、調理技術の自己評価、食習慣変容ステージ)に関する研究
- 2) 喫煙・飲酒行動に関連・影響する Pros と Cons の認識に関する研究
- 3) 日本人を対象としたヘルスリテラシー尺度の開発に関する基礎研究

## 3. 研究の方法

国内5~6府県を所在地とする大学などの学生を対象に、横断的・縦断的なアンケート調査をインターネットにて実施した。「研究の目的」の1)及び2)に関する縦断調査は3年間継続した。アンケート調査の内容は、基本属性、食品群別摂取、朝食摂取、間食、飲酒、喫煙、健康行動の変容ステージ、食の嗜好性、心理的ストレス、意思決定バランスに関する項目等で構成した。上記の縦断調査に加えて、「研究の目的」3)について、健康行動とヘルスリテラシーに関するアンケート調査を別途実施した。縦断的解析、多変量解析等を用いて、食・飲酒・喫煙等の健康行動に関連・影響する要因を検討した。さらに、ヘルスリテラシー尺度の妥当性を検証して、健康行動に影響を与えるヘルスリテラシーの効果測定するための基礎研究として位置付けた。これらの解析結果に基づき、若い世代の生活習慣を支援するための方策について検討を行った。

## 4. 研究成果

### 【成果1】食習慣変容ステージ別にみた食行動・食品群別摂取状況の変化(論文)

行動変容理論 Transtheoretical model (TTM) の主要コンストラクトであるステージ理論に着目し、女子学生の食行動・栄養素等摂取状況との関連を横断的・縦断的に解析した。学年別・食習慣の変容ステージ別に横断的にみた食行動・食品群別摂取状況では、間食のみに有意差を認め、上位群(実行期、維持期)は中位群(準備期)及び下位群(無関心期・関心期)よりも摂取頻度が低かった。一方、食行動・食品群別摂取状況の1年時と2年時の得点変動を縦断的に見ると、いずれの食習慣の変容ステージにおいても1年時から2年時にかけて食行動及び食品群別摂取状況に改善傾向は認められず、健康的な食習慣を6か月から1年以上継続することの困難さが示唆された。以上の結果から、食習慣の変容ステージごとに、食習慣改善のための具体的情報の提供、行動変容の意欲や実行を継続するための支援策充実の必要性が示された。

### 【成果2】女子学生の食の嗜好性と食行動・食品群別摂取状況との関連(論文)

女子学生を対象とした2年間の縦断調査の結果から、食品群別摂取(油脂類、炭水化物、蛋白質)、時間帯別間食頻度の増加に影響を与え得る食嗜好の傾向を明らかにした。

1. 食嗜好と栄養摂取状況の関連: 揚げ物・炒め物、肉料理の嗜好性が高い学生は、学年に関わらず油脂類の摂取量も増加傾向を示した。また、肉料理の嗜好性が高いほど、炭水化物、蛋白質の摂取量も増加傾向を示した。3年時において、スナック菓子及び甘いお菓子の嗜好性が高いほど、油脂類の摂取量も増加傾向を示した。
2. 食嗜好と間食行動の関連: 特に2年時、3年時において、スナック類の嗜好性が高いほど、午後・夕食前の間食摂取頻度も増加傾向を示した。甘いお菓子の嗜好性と時間帯別間食摂取頻度との関連は、特に大学2年時において認められ、嗜好性が高いほど、午後・夕食前の間食摂取頻度も増加傾向を示した。

これらの結果から、女子学生の脂肪、炭水化物、たんぱく質の摂取量増加に関連する揚げ物や炒め物、肉料理の嗜好性、間食頻度に関連するスナック菓子や甘いものへの嗜好性が示唆された。これまで着目されることが少なかった学生の食嗜好と食行動との関連を明らかにして、学生の食生活支援に有用な新しい健康情報を提示した。

#### 【成果 3】調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響(論文 )

女子学生による調理技術の自己評価と栄養素等摂取状況との関連を縦断的に分析して、調理技術の自己評価が栄養素等摂取状況に与える影響を検討した。1 学年から 2 学年にかけて、栄養素等摂取状況の低得点群から高得点群に上昇した群(以下、上昇群)の調理技術得点を縦断的に比較したところ、2 学年における野菜の煮物、にんじん、ピーマン、キャベツの三色野菜炒め、調理技術総合得点有意に高値を示した。また、上昇群の栄養素等摂取状況得点は、2 学年において緑黄色野菜、果物・淡色野菜、カルシウム、油脂類、栄養素等摂取状況の総合得点がいずれも有意に高値を示した。1 学年から 2 学年にかけて、低得点群から高得点群に上昇した要因として、野菜の調理技術向上と緑黄色野菜、淡色野菜・果物等の摂取状況の改善が示唆された。

#### 【成果 4】男子学生の喫煙行動と喫煙に対する恩恵・負担の認識との関連(論文 )

男子学生の喫煙行動に影響を及ぼす Pros(喫煙に伴う恩恵) Cons(喫煙に伴う負担)の認識の効果を検討した。解析の結果、Pros の合計得点は、20 歳未満、20 歳以上いずれも喫煙群が非喫煙群よりも有意に高値を示し、喫煙に伴う恩恵をより認識していることが明らかとなった。一方、Cons の合計得点は、20 歳以上において、非喫煙群が喫煙群よりも有意に高値を示し、喫煙に伴う負担をより認識している傾向が示された。喫煙に伴う Pros と Cons の認識は、男子学生の喫煙行動に影響し得る要因であり、若年男性に対する喫煙防止教育において意思決定バランスを検討することの有用性が示唆された。

#### 【成果 5】女子大学生の飲酒行動の変化と飲酒に対する恩恵・負担の認識との関連(論文 )

女子大学生の飲酒行動の実態を把握するとともに、飲酒行動に関連する要因を検討し、飲酒行動の改善に向けた教育的支援の検討に活用し得る健康情報を提示した。縦断的調査の結果から、学年の上昇とともに「飲酒に伴う恩恵(Pros)」の合計得点及び飲酒頻度は上昇傾向を示し、2、3 学年において、両要因に有意な相関が見られた。飲酒によって得られる恩恵の意識が高まると、飲酒頻度も上昇することが示唆された。2、3 学年において、「飲酒に伴う負担(Cons)」の合計得点と飲酒頻度に有意な相関が見られ、飲酒に伴う負担の意識が高まると、飲酒頻度は低下することが示唆された。女子大学生の飲酒を抑制するための健康教育に、飲酒行動の意思決定バランスを活用できる可能性が考えられた。

#### 【成果 6】女子大学生の間食行動と心理的ストレスとの関連(論文 )

女子大学生の間食行動と心理的ストレスの縦断調査結果から、間食行動に及ぼす心理的ストレスの影響を検討した。初年次は、友人との人間関係や部活動での人間関係を中心とした心理的ストレスが高いほど間食頻度は高く、対人ストレスの程度が高いほど一人で間食する頻度も高い傾向が見られた。2 年次は、非一人暮らしの群にのみ、時間帯別間食頻度得点と対人ストレス合計得点との間に有意な相関関係を認め、ストレスの程度が高いほど午後の間食や一人で間食する頻度も高い傾向が見られた。3 年次は、一人暮らしの群にのみ、対人ストレス合計得点と間食頻度得点に有意な相関関係を認め、対人ストレスが高いほど、間食頻度も高い傾向が見られた。以上、女子学生の対人関係のストレス等が間食行動に影響する可能性を見出した。

#### 【成果 7】日本人向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発と妥当性検証(論文 、 、 )

近年、健康行動を左右する要因として注目されているヘルスリテラシーの実態を把握するための新しい尺度開発に着手した。文献レビューや日本の学生・社会人を対象とした健康情報の入手・理解・活用及び健康行動に関する全国的な調査結果に基づき、包括的ヘルスリテラシー尺度を作成するとともに、尺度の信頼性・妥当性を検証した。包括的ヘルスリテラシー尺度を用いた学生等若い世代及び勤労者のヘルスリテラシー測定に基づく生活習慣病予防のための新しい健康支援策に関する手立てを提案した。

#### 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者には下線)

[ 学術雑誌 ](全て査読あり)

笠巻純一、笠原賀子。食習慣変容ステージ別にみた食行動・食品群別摂取状況の変化：女子大学生の 1 年間の縦断調査結果の分析から。日本公衆衛生雑誌(2024 年 6 月 24 日審査(採用))、2024 公開予定

笠巻純一、宮西邦夫、笠原賀子、松本裕史、西田順一、中台桂林。若い世代向け包括的ヘルスリテラシー尺度 CHLSY-27 の開発。Health and Behavior Sciences 22(2):51-60, 2024

笠巻純一、宮西邦夫、笠原賀子、松本裕史、西田順一。女子学生の食の嗜好性と食行動・食品群別摂取状況との関連 - 2 年間の縦断調査結果の分析から -。Health and Behavior

Sciences 22(2):77-88, 2024

中台桂林, 笠巻純一, 丸田穂花. 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発と生活習慣との関連. 日本衛生学雑誌 79:1-13, 2024

笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行, 丸田穂花. 調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響 - 1年間の縦断調査結果に基づく解析 -. Health and Behavior Sciences 21(2):85-98, 2023

笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行, 丸田穂花. 男子学生の喫煙行動と喫煙に対する恩恵・負担の認識との関連. Health and Behavior Sciences 21(1):39-50, 2022

KASAMAKI Junichi, MIYANISHI Kunio, KASAHARA Yoshiko, MATSUMOTO Hiroshi, NISHIDA Junichi, SHIBUKURA Takayuki. Correlation between changes in drinking behavior of female university students and pros/cons of alcohol intake: A 2-year longitudinal study. Health and Behavior Sciences 20(2):69-82, 2022

中台桂林, 笠巻純一. 本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発: 新潟県の勤労者を対象としたパイロットスタディ. Health and Behavior Sciences 20(2): 99-107, 2022

笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行. 女子大学生の間食行動と心理的ストレスとの関連 1年次から3年次にわたる縦断調査による検討. Health and Behavior Sciences 19(2): 45-56, 2021

中台桂林, 笠巻純一. 日本人におけるヘルスリテラシーと飲酒・喫煙の関係~文献レビューによる検討~. Health and Behavior Sciences 19(1): 31-40, 2020

#### [学会発表]

笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 丸田穂花. 学生のヘルスリテラシーは食行動といかに関連するか: 日本国内6府県の大学生等へのアンケート調査結果から. 第30回日本行動医学会学術総会, 2023

丸田穂花, 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一. 学生の就寝・起床時刻, 睡眠時間と食習慣との関連. 第30回日本行動医学会学術総会, 2023

丸田穂花, 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一. 学生の食品群別摂取状況と睡眠時間、起床・就寝時刻との関連. 一般社団法人日本学校保健学会 第69回学術大会, 2023

笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 西田順一, 中台桂林. 若い世代向け包括的ヘルスリテラシー尺度 CHLSY-27 の開発. 日本健康行動科学会第22回学術大会, 2023

中台桂林, 笠巻純一, 丸田穂花. 勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度 (CHLS-J) の開発: 日本国内6県の一般企業・法人を対象とした調査から. 第31回日本健康教育学会学術大会, 2023

笠巻純一. 大学生の生活習慣病予防に向けた健康支援策(シンポジウム「疾病予防と健康」). 日本健康行動科学会第22回学術大会, 2023

笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一. 女子大学生の食嗜好と場面に応じた間食頻度との関連~2年間の縦断研究~. 第11回日本食育学会学術大会, 2023

笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一. 食習慣変容ステージ別にみた食行動・栄養素等摂取状況の変化~1年間の縦断研究から~. 第93回日本衛生学会学術総会, 2023

笠巻純一, 丸田穂花, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行. 調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響 - 1年間の縦断調査結果に基づく解析 -. 一般社団法人日本調理科学会 2022年度大会, 2022

丸田穂花, 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行. 性・学年別にみた学生の調理技術の自己評価分析. 一般社団法人日本調理科学会 2022年度大会, 2022

笠巻純一, 笠原賀子. 喫煙に伴う恩恵と負担の認識が男子学生の喫煙行動に及ぼす影響. 第80回日本公衆衛生学会総会, 2021

中台桂林, 笠巻純一. 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度と基本属性との関連: 性、年齢、学歴等の属性に焦点をあてて. 第29回日本健康教育学会学術大会, 2021

中台桂林, 笠巻純一. 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発: 新潟県の勤労者を対象としたパイロットスタディ. 第27回日本行動医学会学術総会, 2020

笠巻純一, 笠原賀子. 女子学生の間食行動と心理的ストレスの関連: 第1学年から第3学年にわたる縦断調査から. 第79回日本公衆衛生学会総会, 2020

笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行. 食の嗜好性は、女子大学生の食行動・栄養素等摂取状況にいかに関与するか. 第67回日本栄養改善学会学術総会, 2020

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 中台桂林	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 若い世代向け包括的ヘルスリテラシー尺度CHLSY-27 の開発	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 女子学生の食の嗜好性と食行動・食品群別摂取状況との関連 - 2年間の縦断調査結果の分析から -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中台桂林, 笠巻純一, 丸田穂花	4. 巻 79
2. 論文標題 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発と生活習慣との関連	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1265/jjh.23003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行, 丸田穂花	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響 - 1年間の縦断調査結果に基づく解析 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 85-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32269/hbs.21.2_85	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行, 丸田穂花	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 男子学生の喫煙行動と喫煙に対する恩恵・負担の認識との関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 39-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32269/hbs.21.1_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Junichi Kasamaki, Kunio Miyanishi, Yoshiko Kasahara, Hiroshi Matsumoto, Junichi Nishida, Takayuki Shibukura	4. 巻 20 (2)
2. 論文標題 Correlation between changes in drinking behavior of female university students and pros/cons of alcohol intake: A 2-year longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32269/hbs.20.2_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中台桂林, 笠巻純一	4. 巻 20 (2)
2. 論文標題 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発: 新潟県の勤労者を対象としたパイロットスタディ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 99-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32269/hbs.20.2_99	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 渋谷崇行	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 女子大学生の間食行動と心理的ストレスとの関連 1年次から3年次にわたる縦断調査による検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32269/hbs.19.2_45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中台桂林, 笠巻純一	4. 巻 19(1)
2. 論文標題 日本人におけるヘルスリテラシーと飲酒・喫煙の関係～文献レビューによる検討～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32269/hbs.19.1_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠巻純一, 笠原賀子	4. 巻 -
2. 論文標題 食習慣変容ステージ別にみた食行動・食品群別摂取状況の変化: 女子大学生の1年間の縦断調査結果の分析から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計15件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 丸田穂花
2. 発表標題 学生のヘルスリテラシーは食行動といかに関連するか: 日本国内6府県の大学生等へのアンケート調査結果から
3. 学会等名 第30回日本行動医学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸田穂花, 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一
2. 発表標題 学生の就寝・起床時刻, 睡眠時間と食習慣との関連
3. 学会等名 第30回日本行動医学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸田穂花, 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一
2. 発表標題 学生の食品群別摂取状況と睡眠時間、起床・就寝時刻との関連
3. 学会等名 一般社団法人 日本学校保健学会 第69回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 西田順一, 中台桂林
2. 発表標題 若い世代向け包括的ヘルスリテラシー尺度CHLSY-27の開発
3. 学会等名 日本健康行動科学会第22回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中台桂林, 笠巻純一, 丸田穂花
2. 発表標題 勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度 (CHLS-J) の開発: 日本国内6県の一般企業・法人を対象とした調査から
3. 学会等名 第31回日本健康教育学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一
2. 発表標題 女子大学生の食嗜好と場面に応じた間食頻度との関連~2年間の縦断研究~
3. 学会等名 第11回日本食育学会学術大会
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一
2. 発表標題 食習慣変容ステージ別にみた食行動・栄養素等摂取状況の変化～1年間の縦断研究から～
3. 学会等名 第93回日本衛生学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笠巻純一, 丸田穂花, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一, 洪倉崇行
2. 発表標題 調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響 –1年間の縦断調査結果に基づく解析–
3. 学会等名 一般社団法人 人日本調理科学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸田穂花, 笠巻純一, 笠原賀子, 宮西邦夫, 松本裕史, 西田順一, 洪倉崇行
2. 発表標題 性・学年別にみた学生の調理技術の自己評価分析
3. 学会等名 一般社団法人 日本調理科学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠巻純一, 笠原賀子
2. 発表標題 喫煙に伴う恩恵と負担の認識が男子学生の喫煙行動に及ぼす影響
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中台桂林, 笠巻純一
2. 発表標題 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度と基本属性との関連: 性、年齢、学歴等の属性に焦点をあてて
3. 学会等名 第29回日本健康教育学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中台桂林, 笠巻純一
2. 発表標題 日本人の勤労者向け包括的ヘルスリテラシー尺度の開発: 新潟県の勤労者を対象としたパイロットスタディ
3. 学会等名 第27回日本行動医学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠巻純一, 笠原賀子
2. 発表標題 女子学生の間食行動と心理的ストレスの関連: 第1学年から第3学年にわたる縦断調査から
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠巻純一, 宮西邦夫, 笠原賀子, 松本裕史, 西田順一, 洪倉崇行
2. 発表標題 食の嗜好性は、女子大学生の食行動・栄養素等摂取状況にいかに関与するか
3. 学会等名 第67回日本栄養改善学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠巻純一
2. 発表標題 大学生の生活習慣病予防に向けた健康支援策
3. 学会等名 日本健康行動科学会第22回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西田 順一  (Nishida Junichi)  (20389373)	近畿大学・経営学部・教授   (34419)	
研究分担者	松本 裕史  (Matsumoto Hiroshi)  (20413445)	武庫川女子大学・健康・スポーツ科学部・教授   (34517)	
研究分担者	宮西 邦夫  (Miyanishi Kunio)  (70018836)	新潟県立大学・その他・名誉教授   (23102)	
研究分担者	笠原 賀子  (Kasahara Yoshiko)  (90194711)	長野県立大学・健康発達学部・名誉教授   (23603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	洪倉 崇行  (Shibukura Takayuki)	桐蔭横浜大学大学院・スポーツ科学研究科・教授	
研究協力者	中台 桂林  (Nakadai Keirin)		
研究協力者	丸田 穂花  (Maruta Honoka)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関